

第 17 回日本在宅医学会大会 シンポジスト 抄録集・ホームページ掲載用原稿

シンポジウムテーマ		在宅死の現状について					
開催日	2015 年 4 月 25 日 (土)		時間	17:00-19:00		収容人数	500 名
講師情報	ふりがな	姓	でみず		名	あきら	
	ご芳名		出水			明	
	ご所属		医療法人出水クリニック・岸和田市医師会				
	部署					役職	

演題名 (80 字以内)

半数以上が検案事例…… 地域での自宅死亡の実態調査報告
平成 25 年度岸和田市医師会在宅医療推進モデル事業基礎データ調査から

ご略歴 (300 字以内)

昭和 27 年和歌山県生まれ
京都大学工学部中退、会社勤務後、昭和 61 年大阪大学医学部卒業
大阪大学医学部付属病院麻酔科、集中治療部、大阪警察病院麻酔科、喜多病院ペインクリニック科を経て 1996 年 4 月 出水クリニックを岸和田市に開設 現在に至る 医療法人出水クリニック院長・理事長
日本ペインクリニック学会専門医 日本麻酔科学会麻酔専門医
日本在宅医学会認定専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医
岸和田市医師会理事 (在宅ケア担当)
岸和田緩和ケア地域ネットワーク研究会代表世話人 岸和田在宅ケア 24 代表世話人
岸和田市介護保険事業者連絡会会長

講演概要 (1000 字以内)

目的
人口動態統計では自宅死亡が通常のかかりつけ医等による診断 (看取り) か、警察が介入する検案かは不明である。多死時代への対応を検討する上で、地域の基礎データとして得ることを目的とした。

方法
平成 25 年度岸和田市医師会が行政を含む多職種と協働実施した在宅医療推進事業に基礎データ調査を位置づけ、大阪府岸和田保健所企画調整課に依頼、厚生労働省の許可を受け、保健所内で平成 24 年 1 年間の岸和田市全死亡小票から記載属性を集計し、その集計表を分析した。

結果
岸和田市の年間全死亡 1990 人で、自宅 326 人 16.2% 医療機関 77.8%、老健・老人ホーム等 3.5% その他 2.3% であった。自宅死亡中、検案事例 184 人 56%(病死・自然死 48% その他 8%)、通常の見取り 142 人 44% であった。疾患別死亡数上位は、病院では悪性新生物 492 (32.2%) 心疾患 208 (13.6%) 肺炎 192 (12.5%)、自宅では心疾患 162 (49.7%) 悪性新生物 82 (25.1%) 自殺 18 (5.6%) であった。

考察
自宅死亡中、検案事例は 56% に達する。東京都北区平成 23 年調査でも監察医務院関与が 65% と大都市ではさらにこの傾向が強い。今後こうした数値が人口動態統計の中で示され、地域の医療介護資源提供や、孤独死、孤立死、突然死対策につなげる必要がある。今回の調査の限界として検案死か看取りかの確定が、死亡小票にはこの区分データが無いため出来ず、書類記入施設への確認でおこなった。平成 26 年度事業では、このデータを含む集計許可を得て、より確実なデータの分析をおこない報告する予定である。